

再評価実施事業調査書

番号	5	事業名	流域治水対策 河川事業		路線又は箇所名等		(二)作田川水系作田川		
事業所管課		河川整備課			事業主体		千葉県		
事業化 年度	昭和 60年度	用地着手 年度	昭和 60年度	工事着手年度	昭和60年度 平成47年度	再評価の 理由	再々評価		
費用便益比 B/C	2.8 (5.7)	総費用 (現在価値)	154億円 (28億円)	総便益 (現在価値)	435億円 (159億円)	基準年	平成 29年度	供用開始 年度	平成 47年度

※上段：全体事業費 下段()：残事業費

【事業概要】

(目的)

作田川では、昭和40年代の洪水を契機に昭和51年度に河川改修に着手し、昭和60年から本格的に河道拡幅や橋梁改築・堰などの改築を行ってきたが、平成元年、平成3年、そして平成8年の台風により成東駅周辺市街地や上流部で甚大な浸水被害を受けたことから、上中流区間を対象とした緊急的な事業も実施してきた。

圏央道開通に伴って市街化の進展が予想され、さらなる河川への流出量の増加が見込まれることから、早急に改修事業を概成させる必要がある。

(主な実施内容)

河道の改修延長 15,400m 河道掘削 275,939m³ 築堤 14,628m 護岸 902m
用地取得 165,036 m² 橋梁架替 11橋 堰改築 3基 樋門樋管 49基 揚水機場 1ヶ所

【事業の進捗状況】(H29年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	98.17	62.21	35.96	63.0

【社会経済情勢等】

① 流域状況

作田川は、上流部が丘陵地と市街地、中流部は低平な農地と市街地、下流部は市街地と農地が混在し、河口は片貝漁港として利用されている、流域面積104.3k m²指定延長18.2kmの二級河川である。氾濫区域には、日向駅周辺市街地(上流部)、成東駅周辺市街地(中流部)、JR総武本線・東金線、国道126号などの交通網が含まれ、水害発生時の浸水被害や社会的影響が大きい。市街化進展や地球温暖化に伴って増加している集中豪雨など河川への流出量の増加が見込まれる昨今、河川改修事業の概成が急務である。

② 主な水害状況

- ・平成元年7月31日(台風17号) 浸水面積140ha 浸水家屋数136戸
- ・平成3年9月19日(台風18号) 浸水面積166ha 浸水家屋数24戸
- ・平成8年9月22日(台風17号) 浸水面積355ha 浸水家屋数338戸
- ・平成16年10月9日(台風16号) 浸水面積94ha 浸水家屋数82戸
- ・平成25年10月16日(台風26号) 浸水面積121ha 浸水家屋数78戸

③ 投資効果

- ・浸水戸数833戸(126戸) ・浸水面積600ha(172ha) [裸書:全体事業、():残事業]

④ その他

- (計画)・二級河川作田川水系河川整備基本方針 H16.11.1策定、H27.6.3変更
- ・二級河川作田川水系河川整備計画 H19.2.22策定、H27.7.29変更
- (関連事業)・床上浸水対策特別緊急事業

【対応方針(案)】

作田川流域では、浸水被害だけでなく通過交通の遮断などによる社会的影響も大きく、本治水事業への地元からの要望が強い。全体事業の費用便益(B/C)は2.8(残事業5.7)であり、事業の投資効果も見込まれることから事業を「継続」し、計画的な事業の推進を図る。

事業概要図

番号	5	事業名	流域治水対策 河川事業	路線又は 箇所名等	(二) 作田川水系作田川
----	---	-----	----------------	--------------	--------------

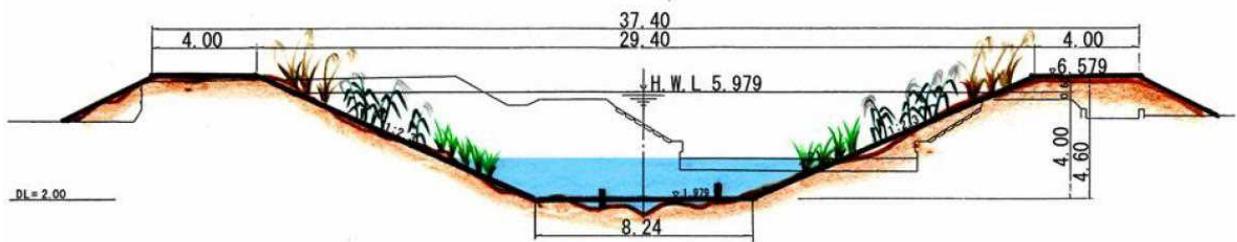
計画平面図



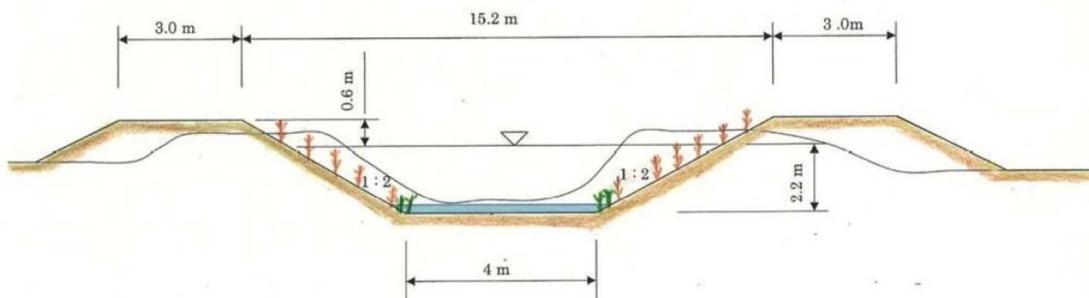
事業名	流域治水対策河川事業
事業期間	昭和60年～平成47年
事業区間	九十九里橋～源川合流点
全体事業費	98億1700万円

標準横断面図

●成東地点



●源川



再々評価事業に関する調書

番号	5	事業名	流域治水対策 河川事業	路線又は 箇所名等	(二)作田川水系作田川	
事業化年度	昭和 60 年	用地着手年度	昭和 60 年	工事着手年度	昭和 60 年	
【再評価 (H24 年度) の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成 24 年度	供用開始年度	平成 31 年度	対応方針	継続	
B/C	7.7 [8.9]	総費用	40 億円 [143]	総便益	306 億円 [1275]	
(裸書 : 残事業、[] : 全体事業)						
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 ○継続することが妥当である。						
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況						
	計 画	進捗状況 (H24 末)		5 年後の推定進捗状況		
事業費	98.17 億円	54.08 億円 (55%)		64.11 億円 (65%)		
うち用地・補償費	30.44 億円	21.68 億円 (71%)		23.89 億円 (78%)		
うち工事費等	67.73 億円	32.40 億円 (48%)		40.22 億円 (59%)		
【再々評価 (H29 年度) の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成 29 年度	供用開始年度	平成 47 年度	対応方針	継続	
B/C	5.7 [2.8]	総費用	28 億円 [154 億円]	総便益	159 億円 [435 億円]	
(裸書 : 残事業、[] : 全体事業)						
現在の進捗状況 (H29 年度末見込)						
	計 画	進捗状況 (H29 末)				
事業費	98.17 億円	62.21 億円 (63%)				
うち用地・補償費	30.44 億円	22.02 億円 (72%)				
うち工事費等	67.73 億円	40.19 億円 (57%)				
再評価後の 経過 及び 処理状況	平成 25 年 3 月 第 7 回作田川流域懇談会 事業再評価「継続」 平成 27 年 7 月 河川整備計画 変更 (工事終了年度見直し)					